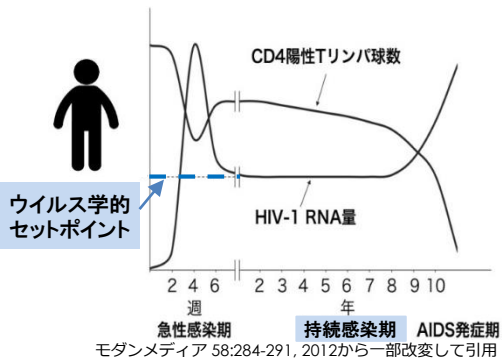


HIV-1感染動態を反映する免疫系ヒト化マウスの構築

現状と課題

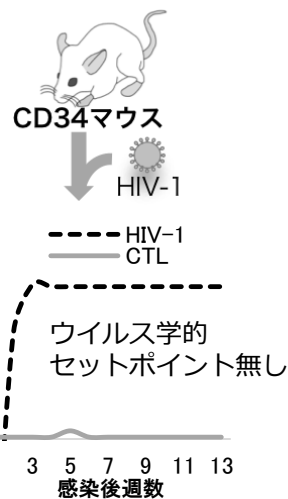


持続感染期

抗HIV薬の長期服用

- アドヒアランスの維持↓
- 薬剤耐性株↑
- 医療費↑

持続感染期の複製制御の重要性

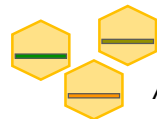


適切な動物モデルの欠如

研究内容

IBMI法による造血幹細胞移植 (関西医科大学・藤澤教授より技術提供、Blood 123:346-355, 2014等)

獲得免疫誘導に関する研究 (アーロンダイアモンド研究所・辻教授より材料提供、PLoS ONE 9: e88205, 2014等)



AAV導入

- サイトカイン
- HLA

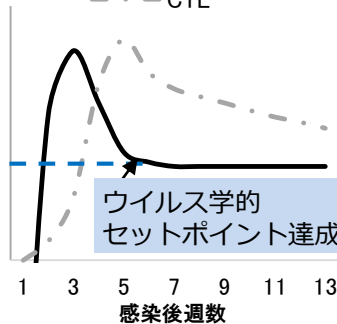


HIV-1

— HIV-1

- - - CTL

各種HIV-1株の構築と利用 (Nomaguchi et al., J Virol. 90: 4563-4578, 2016等)

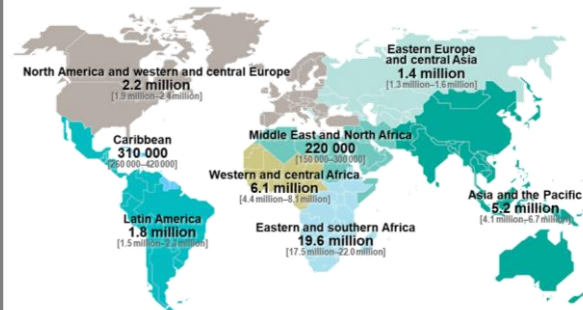


- 獲得免疫発動型ヒト化マウスの構築
- HIV-1感染実験系の確立

HIV-1持続感染期の再現

- 個体内感染動態の分子基盤の理解
- アクセサリー蛋白質群の個体内機能の解明
- 新しい複製制御法の確立

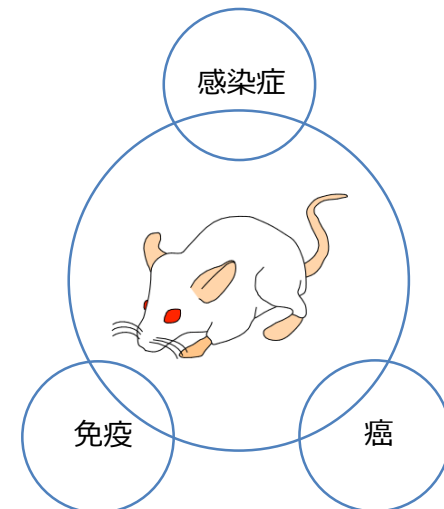
今後の展開



HIV-1感染症

公衆衛生上の課題・リスクの低減

患者のQOL向上



他の研究分野への貢献